果てぬに宵衣旰食一日萬幾を親裁せさせ給ひ終を愼ませ給ひては親しく大喪儀を行ひ如在の禮を盡して大孝を申べさせ給ふ嗚呼　先帝陛下の御遺德に感佩して蹇々匪躬盡忠報國に餘念なき我等臣民は今や　今上陛下が至盛至大の乾德を側聞して爭でか感憤興起せざらむ庶幾くは各自その分を守り夙夜恪勤奉公の至誠を竭し以て　先帝に報じて　今上に忠なる所以の道を完うせむ哉

大正元年十一月二十日

東京女子高等師範學校學術談話會文科部

文科學術談話會々誌　第四號

目次

講演

滑稽美に就いての談話大要……文學博士　芳賀矢一……一
明治年間に於ける女子訓の變遷……文學博士　吉田熊次……九
道德的智識と道德行爲との關係……文科四年　福田ふめ……一七
靜寬院宮親子內親王の御事蹟……文科四年　杉山はな……三〇

研究

ショッペンハウエル、ラスキンの女子問題に就ての所感……（承前）……千葉安良……五一

文苑（國文）

悲しき大みゆき……文科二年　關みさを……六二
慈善……文科一年　中島ヒサ……六三
鏡……文科一年　安吉ます……六五

（短　歌）
先帝陛下を悼み奉りて……河崎なつ　六七
題いろ〳〵……六八

偶感
三重だより……鷲尾幾子…七四
秋日雜感……文科三年　田邊馨…七七

彙報
第廿四回文科學術談話會……七九
第三回會計決算報告……七九

交詢
母校だより……八〇
日本海の唯中より……しま人…八二
鹿兒島より……加賀山貞…八五
備中玉島より……田中元惠…八五
春より秋へ……河崎なつ…八六

文科學術談話會々誌　第四號

講演

◉滑稽美に就いての談話大要

文學博士　芳賀矢一

文學は美術の一種である。文學の純なもの即ち詩で、詩は美を表すのが目的である。美には普通の美と崇高美、悲壯美、滑稽美などがある。是等を表はすのが純文學の目的であつて、それが如何に表れて居るかが、文學の價値である。悲壯美は演劇としては悲劇に表れ、滑稽美は喜劇に表れて居る。劇は日本では德川時代に於て著しく進歩したが、尙遡れば謠曲もある。支那からも西洋からも影響せられずに日本獨特の發達を遂げたのである。殊に德川時代に於る平民文學が貴族的文學と並び起つた事は自ら國民の元氣表れたのであつて、他の東洋諸國に類例を見ない。日本國勃興の氣運は既にあらはれて居る。只其材料趣味等に卑いものがあつたのは、公衆の程度が然らしめたので